



東伊建産第 290 号
平成19年 5月 1日

国土交通省道路局長 様

東伊豆町長 太田 長



中期的な計画の作成にあたっての意見について (回答)

伊豆半島は海、山が美しく、都市圏にも近い場所に位置し、年間4,100万人の観光等に来遊する日本でも屈指の観光地であります。当町にも年間100万人近い観光客が来訪しております。しかし地形上山が海までせり出しており、地震、台風、集中豪雨等で災害が発生すると各地で道路が寸断されすぐ陸の孤島となってしまう、多くの観光客、地元民に多大な迷惑がかかるのが現状であります。特に夏の海水浴、5月の大型連休には大渋滞が発生し、伊豆のイメージが阻害されております。当町は南北に長い地形をしておりその中に6の温泉場が存在しておりこの時期に災害が発生すると多くの観光客が取り残される可能性があります。

昭和53年の伊豆大島近海地震では各道路が土砂崩落、道路決壊により寸断され多くの観光客が取残され、海上脱出した苦い経験があります。つきましては、今後の道路政策、整備、管理について別紙のとおり意見を申し上げます。

中期的な計画策定にあつたての意見について（回答）

東伊豆町

伊豆全体で今後最も力を入れて取り組む課題（目標）

東海地震、神奈川県西部地震も予想される中、災害発生時や緊急輸送路としてまた、日常生活で住民が安心して過ごせる街づくりの一環として、首都圏まで短時間で安心して通行できる道路が必要であります。現在計画実施されております伊豆縦貫自動車道の早期完成を望みます。それに伴い隣接する市町へのアクセス道路の建設が求められております。

具体的な道路に関する要望

アクセス道路の新設改良について

東伊豆町は現在計画されております伊豆縦貫自動車道より離れており、この道路からの恩恵は直接ありません。つきましては防災、生活道路としても、河津町からの国道以外のアクセス道路が必要なものであると考えます。

スカイラインの南進（災害道路）の新設について

東伊豆町と伊東市を結ぶ道路は、国道135号と旧国道（現在町道）と2本しかなく、その道路の数箇所は何処が崩壊しても、国道、町道が同時に崩壊し、伊東方向への交通は出来なくなってしまうと見られます。つきましては伊東市、東伊豆町間の道路新設を希望します。

県代行事業町道湯ヶ岡赤川線新設について

この路線は県代行事業であり、20年間継続事業として実施されておりますが、計画延長の約20%位しか完成していない状態です。スカイラインの南進計画道路と接合し伊東市、東伊豆町間の第2の生活路線としてまた災害避難道路、渋滞解消道路として早期に完成が希望されている道路であります。

県道稲取港線道路拡幅について

稲取町内は県道稲取港線が町の中央を走っております。夏場、5月の連休、雛の吊るし飾り祭り時には、多くの方が見えます。また多くの大型観光バス、自家用車が町にあふれ大渋滞が発生し、観光客、ドライバー、地元住民に多大な迷惑を賭けているのが現状であります。つきましては稲取港線の歩道、道路の拡幅整備を希望いたします。